

目次

第 28 回年次大会参加申し込み等について.....	2
1. 参加及び懇親会申し込みについて.....	2
2. 託児所について.....	2
3. 研究発表について.....	2
4. 暫定プログラム.....	3
5. 研究発表予定者の方へ.....	7
第 17 回日本中東学会公開講演会の報告.....	9
報告補遺一庄内とパレスチナをつなぐ キリスト者・黒崎幸吉.....	11
学会ウェブサイトの移行について.....	13
ニューズレターのデジタル化～導入に向けて.....	14
2011 年北米中東学会年次大会に参加して.....	14
会員の異動.....	16
連絡先をご存知ないですか.....	17
寄贈図書.....	17
事務局より.....	18
編集後記.....	18

第 28 回年次大会（2012 年 5 月 12～13 日）参加申し込み等について

1. 参加および懇親会申し込みについて

日本中東学会第 28 回年次大会への参加申し込みは、参加費の振込によって行うことができます。『ニューズレター』本号に、大会への出欠通知、懇親会・弁当（昼食）の申し込みを兼ねた郵便振替用紙が同封されています。大会に参加される方は、この振替用紙をご利用の上、下記の口座に、2012 年 4 月 13 日（金）までに参加費をお支払いください（研究発表に応募された方の参加費納入期限は、後述のとおり、これより早く 2 月 29 日（水）です）。

また、懇親会費、2 日目（5 月 13 日）の弁当代などの納入も同封の振替用紙をご利用ください。なお、弁当の当日申し込みはお受けできません。諸費用は原則として前納でお願い申し上げます。

参加費は 1,000 円、懇親会費は 5,000 円（学生会員は 4,000 円）、2 日目弁当代は 1,000 円です。なお、事前にお振込みいただいた諸費用は返却に応じかねますので、ご注意ください。

振込先（郵便振替口座）

口座番号 00110-3-290956

口座名称 日本中東学会第 28 回年次大会実行委員会

（ニューズレター同封の振替用紙をご利用ください。）

2. 託児所の設置について

託児所利用の希望は、引き続き受け付けております。大会当日に託児所の利用を希望される方がございましたら、準備の都合上、早めにご連絡ください。最終的な締め切りは 2012 年 4 月 13 日（金）の予定です。

託児所の費用については、託児所会計の前年度からの繰越金を充当する予定ですが、利用者の方に利用時間に応じて多少のご負担をお願いいたします。

3. 研究発表について

2 日目（5 月 13 日）の研究発表につきましては、個人発表 44 件、パネル発表 1 件の応募がありました。多数のご応募をいただき、誠にありがとうございます。実行委員会では大会の暫定プログラムを作りました。ただし、今後発表予定者の都合などによる変更の可能性があります。よろしくご了解ください。

最終的なプログラム、会場への交通案内、総会議決の委任状などは 4 月上旬にお手元にお届けする予定です。なお、年次大会の開催時期は、ゴールデンウィーク

ク明けで宿の予約は混雑しないと思われませんが、会場周辺の城北地区の宿は限られております。とりわけ発表予定の方におかれましては、十分余裕を持って宿泊予約されることを強くお勧めいたします。

4. 日本中東学会第 28 回年次大会暫定プログラム

開催日時：2012 年 5 月 12 日（土）・13 日（日）

開催場所：東洋大学・白山キャンパス

< 第 1 日目・2012 年 5 月 12 日（土） >

13:30～17:00 公開イベント

第 1 部：「中東・イスラーム圏の NGO」

内容：インド・パキスタンにおけるハムダルド財団、3・11 東日本大地震でトルコから来日して救援活動に関わったギュレン運動の流れを汲むトルコ文化センターの活動など、中東・イスラーム圏の NGO 活動の現状について考える。

第 2 部：「イスラームの怪異（仮）」

内容：中東・イスラーム世界にまつわる怪異・化獣・妖怪などの存在を、東洋大学学祖である井上円了の提唱した「妖怪学」の視座を交えて再考する。

17:30～18:30 日本中東学会総会

18:45～20:45 懇親会

< 第 2 日目・2012 年 5 月 13 日（日） >

研究発表

◆企画セッション（13:00～14:30） ※昨年同様に英語による 3 部会を設定しています。

(1) Iraq Session

* Mahmoud al-Qaysi (Head of History Department, College of Arts, Baghdad University)

“Iraqi Identity: People, State, History and Ideology, A Historical Perspective”

* Shamran al-Ejli (President of Bayt al-Hikma)

“Bayt al-Hikma”

* Ali Husain Hasson

“Iraqi Economy: Current Challenges and Future Overview”

* Mohammad J. Ibrahim (Bayt al-Hikma)

“Tyranny of Democracy? Two Ways towards the Modernization in Iraq”

(2) A Study of the January 25th Revolution

- * Alaa Farouq Mahmoud Ibrahim (Cairo University)
“Media and the January 25th Revolution : Study of language, ideology and power”
- * Mai Muhammad Al Moatasim (Aramco Overseas Company)
“A Glance into the January 25th Revolution”
- * Hiroshi TOMITA (Keio University)
“Egyptian Art of Consensus Building : Looking through the Political Process of the January 25th Revolution”

(3) Invitation Session (in preparation)

◆個人発表 (Jは大学院生)

第1部会

9:00～9:40 溝渕正季 (上智大学)

「中東諸国の対外行動：リアリズムの観点から (仮)」

9:40～10:20 佐藤尚平 (早稲田大学)

「水と油：『ブライミー陳述書』(1955年)とアラビア半島の主権」

10:30～11:10 河村有介 (京都大学、J)

「政治経済環境の変化と権威主義体制の生存戦略 —エジプト・ムバーラク政権下における食料補助金制度を事例として—」

11:10～11:50 白谷望 (上智大学、J)

「モロッコにおける連合形成—イスラーム主義政党『公正開発党』を事例に」

15:00～15:40 Dimitar M. Dimitrov (一橋大学、J)

“Football in the Countries of Arabian Peninsula Ruling Elites : Intervention and Sport Development”

15:40～16:20 千葉悠志 (京都大学、J)

「アラブ諸国における衛星放送の立地に関する考察 (仮)」

16:20～17:00

なし

第2部会

9:00～9:40 金城美幸 (立命館大学)

「建国後イスラエルにおけるシオニズムの歴史認識の構築—ベン＝ツィオン・ディヌールの役割を中心に— (仮)」

9:40～10:20 今野泰三 (大阪市立大学、J)

「心の中に入植する—宗教シオニストの新たな戦略の展開と実態—」

10:30～11:10 今井宏平 (中央大学、J)

「トルコのユダヤ人が見たトルコとイスラエルの関係悪化—シャローム紙の分

析を中心に— (仮)」

11:10～11:50 鈴木啓之 (東京大学、J)

「パレスチナ被占領地における「市民的抵抗」の発展：インティファダの背景へのアプローチ (仮)」

15:00～15:40 平寛多朗 (東京外国語大学、J)

「エジプト公教育における文学教育」

15:40～16:20 外山健二 (常磐大学)

「ハーマン・メルヴィルとイスラーム」

16:20～17:00

なし

第3部会

9:00～9:40 福島康博 (東京外国語大学)

「イスラーム銀行におけるシャリーア・ボードとメンバーシップ：マレーシアの事例を中心に」

9:40～10:20 黒宮貴義 (一橋大学、J)

「オランダ病」の発生の条件：エジプト、サウジアラビアの1970年代から1980年代、2000年代の二つの時期の比較から (仮)」

10:30～11:10 今井静 (京都大学、J)

「1990年代のヨルダンにおける対外貿易の変容—湾岸危機から中東和平プロセスまでを背景に— (仮)」

11:10～11:50 川村藍 (京都大学、J)

「UAEにおけるイスラーム金融の展開と銀行側の法的枠組み (仮)」

15:00～15:40 Abrar Abdualmanan Barr (早稲田大学、J)

“The Current Situation of Women in Saudi Higher Education : The Case of King Abdullah Scholarship Program (KASP)”

15:40～16:20 小島宏 (早稲田大学)

「東アジアのムスリム移動者におけるハラール食品消費行動の規定要因」

16:20～17:00

なし

第4部会

9:00～9:40 店田廣文 (早稲田大学)

「日本のムスリムコミュニティと地域社会—富山県射水市における「外国人に対する意識調査」調査結果より」

9:40～10:20 岡井宏文 (早稲田大学)

「地域住民におけるイスラーム・ムスリム意識—富山県射水市調査の事例よ

り」

10:30～11:10 石川基樹（早稲田大学）

「地域住民におけるイスラーム・ムスリム意識の規定要因—富山・岐阜調査の事例より」

11:10～11:50 重親知左子（兵庫大学）

「多宗教共存の試み—戦前日本のイスラームをめぐる思想と政策（仮）」

15:00～15:40 竹村和朗（東京大学、J）

「現代エジプトの都市発展の構造と実践：西部デルタの沙漠開拓地、ベヘイラ県バドル市を事例として（仮）」

15:40～16:20 後藤絵美（日本学術振興会）

「二つの裁判のあいだ—エジプトにおける国家とイスラームの関係（仮）」

16:20～17:00 鳥山純子（お茶の水女子大学、J）

「2000年代を生きるカイロの「若者」の生、近代をキーワードに差異を紡ぐ」

第5部会

9:00～9:40 遠藤春香（京都大学、J）

「シャアラニーの聖者論—知と完全性（仮）」

9:40～10:20 高橋圭（上智大学）

「エジプトの世俗化とパン＝イスラーム主義—東洋連盟の事例から（仮）」

10:30～11:10 安田慎（京都大学、J）

「シリア・シーア派参詣地における法学者の活動と役割」

11:10～11:50 塩崎悠輝（同志社大学）

「アフマド・ファターニーのファトワー集—19世紀末から20世紀初めにかけてのマッカと東南アジアの関係—」

15:00～15:40 若桑遼（上智大学、J）

「1930年代チュニジアにおける「保守的論調」の再検討：ターヒル・ハッタード著『シャリーアと社会における我々の女性』（1930年）をめぐる論争を通して」

15:40～16:20 二ツ山達朗（京都大学、J）

「バラカを具現化するものとしての樹木—チュニジアにおけるオリーブの事例から—（仮）」

16:20～17:00 丸山大介（京都大学、J）

「マウリドにおけるタリーカ・タサウフ表象—スーダン・ハルツームにおける預言者生誕祭を事例として—」

第6部会

9:00～9:40 小笠原弘幸（東洋大学）

- 「前近代オスマン帝国における『系譜書』」
 9:40～10:20 齊藤優子（日本学術振興会）
 「コレラの発生と検疫所の設置から見るオスマン帝国の公衆衛生改革—ルメリ
 鉄道沿線を事例として（仮）」
 10:30～11:10 幸加木文（東京外国語大学、J）
 「トルコ性の観点からみたトルコ・イスラームの歴史的展開」
 11:10～11:50 伊藤寛了（東京外国語大学）
 「1940年代のトルコにおける市民の宗教的言論活動と政府の統制（仮）」
 15:00～15:40 西山愛実（京都大学、J）
 「現代トルコにおけるナクシュバンディール教団の発展：アルトゥノルク・グル
 ープの機関誌『金の樋』の分析より（仮）」
 15:40～16:20 宮下陽子（東京大学）
 「現代トルコの利益団体（仮）」
 16:20～17:00 岩坂将充（日本学術振興会）
 「トルコにおける司法と軍：憲法裁判所と『体制』維持の観点から（仮）」

第7部会

9:00～9:40

なし

9:40～10:20 鎌田由美子（早稲田大学）

「17－18世紀のデカン地方における絨毯生産（仮）」

10:30～11:10 小澤一郎（東京大学、J）

「19世紀後半におけるイギリスからガージャール朝への火器移入」

11:10～11:50 稲山円（東京外国語大学、J）

「テヘランにおける宗教実践とジェンダー —女性宗教職能者の位置付けか
 ら—」

15:00～15:40 富永正人（在シリア日本大使館）

「「文型」に基づいたアラビア語教育の試み—運用能力の養成を目指して—」

15:40～16:20 竹田敏之（京都大学）

「現代アラブ世界におけるアラビア語辞典の展開—辞書編纂の伝統と革新—
 （仮）」

16:20～17:00

なし

5. 研究発表予定者の方へ

発表予定者の方は、2012年2月29日（水）までに、(1) 大会参加費の振込と
 (2) 発表要旨原稿の提出をお願いいたします。期日までにこの二つの条件が満た

されない場合は、発表をお断りすることがありますのでご注意ください。

なお、上記期日までに、学会への入会手続を完了し、2012年度までの会費を納入していることも、発表資格条件の一部として定められております。期日までにこの条件が満たされない場合は、発表をお断りすることがありますのでご注意ください。(海外在住などのために参加費の振込みに困難が生じる方は、別途ご相談ください。)

【発表要旨執筆要項】

1. 要旨は大会当日配布される要旨集に掲載します。
2. 分量は、日本語による発表の場合、和文 1,000 字以内、英語による発表の場合、英文 350 words 以内とします。
3. 日本語による発表の場合、英文タイトル・英文要旨 (350 words 以内) を、英語による発表の場合、和文タイトル・和文要旨 (1,000 字以内) もつけてください。
4. 和文、英文とも発表タイトル、氏名、所属 (大学院生の場合はその旨を必ず明記のこと)、要旨本文の順序で書いてください。ただし、所属の書き方等、書式は統一性を保つため、こちらで編集する場合があります。フォント、行数等についてもこちらで決定します。
5. 英文のブラッシュアップ、ネイティブ・チェックは大会実行委員会では行いません。各自の責任で行ってください。
6. アラビア語転写などの特殊文字は用いないでください。
7. 書式なし (シンプル・テキスト) のファイルで、E-mail に添付して、大会事務局アドレス (james2012toyo@gmail.com) に 2 月 29 日 (水) までにご送付ください。

連絡先：

日本中東学会第 28 回年次大会実行委員会事務局 (担当：三沢伸生・子島進)

〒112-8606 東京都文京区白山 5-28-20 東洋大学アジア文化研究所

Tel : 03-3945-7490 Fax : 03-3945-7513

E-mail : james2012toyo@gmail.com

(可能な限りメールでご連絡・お問い合わせいただければ幸いです。)

(三沢伸生)

第17回日本中東学会公開講演会「庄内からイスラームを考える」

報告

2011年（平成23年）11月12日（土）、山形県酒田市総合文化センターで、日本中東学会主催、酒田市、酒田市教育委員会、酒田市図書館・光丘文庫、大川周明顕彰会後援の、「庄内からイスラームを考える」と題された公開講演会が開催された。そのプログラムは、以下のとおりである。講演会は、ほぼプログラムに沿って進行した。

13：30～13：35	主催者挨拶・大川周明顕彰会会長挨拶
13：35～14：05	講演1「アラブ革命と日本」長沢栄治（東京大学）
14：05～14：35	講演2「大川周明のイスラーム研究」臼杵 陽（日本女子大学）
14：35～15：05	講演3「内藤智秀とイスラーム」三沢伸生（東洋大学）
15：05～15：20	休憩
15：20～17：00	パネルディスカッション「中東イスラーム世界と日本—イスラームと大川周明に注目して」
15：20～15：35	基調報告1 佐藤昇一（大川周明顕彰会）
15：35～15：50	基調報告2 松長 昭（笹川平和財団）
15：50～17：00	自由討議

パネリスト：長沢栄治・臼杵 陽・三沢伸生・佐藤昇一・松長 昭
司会：加藤 博（一橋大学）

講演会は2部からなり、第一部は三つの講演から構成された。講演会は「大川周明とイスラーム」を主たる議題として企画された。しかし、日本中東学会主催の公開講演会が学会活動の社会還元を目的としているところから、中東において現在展開し、耳目を集めている「アラブ革命」について解説した講演1と、大川周明の思想を広い文脈で、そして相対的な視角から議論するために講演3が設定された。

講演1「アラブ革命と日本」では、まず写真を紹介しつつ、そして東日本大震災（3.11）との比較にも言及しながら、エジプトのムバーラク体制を崩壊させたアラブ革命（2.11）の経緯と背景、そのもつ歴史的な意味が解説された。そこで強調されたのは、抑圧と腐敗の原因を断つとの意欲からの自己犠牲の精神と希望の

共有であり、アラブ諸国における新しい社会契約の実現への期待であった。次いで、以上のアラブ諸国の変革を踏まえて、戦後における日本と中東との関係の歴史を振り返る中で、イスラーム、中東、アラブに対する既成のイメージと偏見を克服し、個人ベースでの交流と文化への関心を高めるべきことが提言された。そして、かかる目的のために、戦前における日本のイスラーム研究を振り返ることは有益ではないかと講演を結んだ。

講演2「大川周明のイスラーム研究—『回教概論』とコーラン翻訳」では、大川周明のイスラーム研究が概観された。まず大川の生涯を振り返り、彼の研究者の出発点と終着点において、イスラームという宗教が彼の思想において大きな位置を占めており、イスラームは彼の思想形成に多大な影響を持っていたにも関わらず、この点について注目されることがなかったこと、しかし、それを指摘し、大川のイスラーム研究に対して高い評価を与えたのが竹内好（1910-77年）だったことが指摘される。そして、大川のイスラーム研究の復権に大きな力があつたのが井筒俊彦の大川への言及であったことを確認した後、大川のイスラーム観を井筒の「イスラームの二つの顔」、つまり（1）「律法に基づいて外面的生活を律する共同体的イスラーム」と（2）「内面的生活を重視する精神的イスラーム」という分析概念を使って、大川のイスラーム観が青年時代の（1）から政治に関与した時期の（2）をへて、晩年に再び（1）に戻ったと主張した。

講演3「内藤智秀とイスラーム」では、大川周明と同じく庄内地方出身のトルコ研究者、内藤智秀の事績が紹介された。内藤は大学の西洋史学科を卒業したが、その研究者としての経歴をバルカン研究者として出発した。当時のバルカンにおける民族運動に触発されたからであった。その後、外務省勤務の過程で、トルコ研究へと転じ、後年、研究生生活に復帰してからは、トルコに関する研究者、教育者としての生涯を歩んだ。同じくトルコ研究者であった大久保幸次とは対照的に、政治とは距離をおいた研究生生活であった。同郷の大川周明とは接点があつたようであり、今後、両者の交流の解明が望まれるが、より広く、大川周明や内藤智秀の生涯や思想と彼らを育てた庄内地方の文化や人脈との関係が研究されるべきであると結ばれた。

第二部は「中東イスラーム世界と日本—イスラームと大川周明に注目して」と題され、二つの基調報告と自由討議からなる、パネルディスカッションであった。基調報告1では、大川周明の思想と庄内地方の文化との関係が、地方史家の立場から論じられた。大川家は鶴岡の医者の家系出身であり、大川周明の気質は商人の町、酒田よりも、武士の町、鶴岡の文化の特徴に近いのではないかと指摘があり、庄内地方の文化については、出羽三山の修験道の影響力を強く受けており、

それが中東の遊牧文化との間の類似性をもたらしたかもしれないとの、興味深い問題提起があった。基調報告2では、大川周明の宗教観には、大学で学んだ比較宗教学の影響が強くみられ、そのためもあってか、大川のイスラーム観は観念的なものにとどまっていたのではないかとの、鋭い指摘があった。実際、大川は中国やインドの政治家や知識人と深い交流を持ったが、イスラーム教徒の政治家や知識人と同じような深い交流をもった形跡はない。

自由討議では、二つの基調報告を踏まえて、主として次の二つの話題をめぐって、フロアの参加者を交えて、活発な議論が展開された。第一は、大川周明の気質、思想と酒田の文化との関係である。その中で、大川に顕著な合理的、理性的発想の背後に、米相場をはり、勘定高い商人都市、酒田の文化があるのではないかとの興味深い指摘があった。第二は、大川のイスラーム研究と政治との関係である。この点については、大方の論者が、大川のイスラーム研究における政治性の希薄さ、彼のイスラームへの関心の背後にある、反植民地主義への強い情熱を指摘した。そのほか、参加したフロアの酒田市民からの「イスラーム世界におけるアメリカのプレゼンス」、「イスラームと日本の伝統文化との関係」など、素朴な疑問に対する質疑応答もなされ、有意義で楽しい公開講演会であった。聴衆は100名近くに上った。これは、地方都市で開催された公開講演会で最高の人数である。これも、事務・広報・会場設定に尽力された大川周明顕彰会メンバーの方々のおかげである。ここに、改めて、お礼を申し上げたい。(2011年11月15日記)

(加藤博)

公開講演会補遺——庄内とパレスチナをつなぐキリスト者・黒崎幸吉

第17回日本中東学会公開講演会そのものについては加藤博氏による詳しい報告があるので、私は講演者の一人として、あるいはこの講演会の企画の段階にかかわった関係者の一人として、大川周明にまつわる庄内出身者でパレスチナにかかわった人物について公開講演会の補遺として少々雑感を述べてみたい。

今回、三沢伸生氏が庄内・余目出身の内藤智秀について講演したが、その中で内藤が大川と旧制庄内中学時代の同級生であったことに触れた。実は庄内中学の同級生でもう一人大川との接点をもった人物がいる。大川はその人物について自著『復興亜細亜の諸問題』の「序」において言及しているのでそのまま引用してみよう。

「初め予の研究の転向するや予の諸友は之を以て邪路に踏み込めるものとなし、須らく第一義の参究に復帰すべしと迫れること、ただに一再に止まらなかった。就中当時住友の社員たり、今は内村鑑三氏の分身たる黒崎幸吉君が、

国際問題に関する一小著に対し、切々として予が印度哲学より如是の研究に移るの非を諫めたる書面を送り来れることは、今尚感謝なくして想起し得ざる所である」(大川周明『復興亜細亜の諸問題』1922年、3頁)。

この一節は大川が1913年に神保町でヘンリー・コットンの『新インド』に出会い、「白人に蹂躪される」植民地インドの悲惨な状態から解放のために闘うアジア主義者になるきっかけとなった出来事を記した部分である。イスラームに関しても大川は「宗教と政治とに間一髪なきマホメットの信仰に、いたく心惹かれ」るようになったと回想している。ここで大川が「当時住友の社員たり、今は内村鑑三氏の分身たる」人物として言及しているのが、無教会派キリスト者として著名な黒崎幸吉(1886～1970年)である。黒崎は庄内藩士を父として明治維新直前に鶴岡で生まれた。庄内中学・一高を経て、帝大法科に入学、学生時代に内村の聖書研究会に参加が許された。卒業後、住友本社に勤めて1921年に同社を退職、その後は生涯、無教会派のキリスト教伝道者として生きることになる。

黒崎は1922年から25年まで独仏英に留学、その帰路、パレスチナ・エジプトを旅して聖地巡礼を果たした。帰国後の25年末、向山堂書房から『パレスチナの面影』という旅行記を出版した。ところが、この本はたんなる聖地巡礼記ではない。というのも、おそらく矢内原忠雄(当時、東京帝大助教授)の「シオン運動に就て」(『植民政策の新基調』1927年刊、所収)とともに、委任統治領パレスチナのユダヤ人入植地を訪問して、具体的にその様子を記した最初の単行本のうちの一冊と言っていいからである(徳富蘆花はもっと早い時期に訪問しているが入植地には関心を示していない)。矢内原も黒崎と同じく内村門下の無教会派キリスト者で、大学卒業後、先輩の黒崎を倣うかのように住友の別子銅山で勤務し、その際、黒崎主宰の新居浜での無教会派の伝道集会で聖書を講義した経験をもつ。黒崎のシオニズム観にも、師・内村のそれを継承して、矢内原と同様、無教会派的な「キリスト教シオニスト」の見方が色濃く反映されている。

「パレスチナの将来の運命は果して幸福と希望とを以て充たされて居るであろうか、其の事は非常な疑問である。聖書の預言は寧ろ其の反対であり、メシアなるキリストを信ぜざるまゝに諸国より帰り来るユダヤ人も他の不信の諸国民と同様に非常な苦難の時代を経過しなければならない事を教へて居る。折角其の故国を回復し沙漠の如くに荒れて居るパレスチナの地を乳と蜜の流るゝ地たらしめんが為に努力して居る是等の殖民の運命が結局患難と辛苦とであるならばあまりにも可哀そうにも思はれる」(黒崎幸吉『パレスチナの面影』111頁)。

加藤氏の報告にもあるように、大川の精神的風土は同じ庄内でも商人の町・酒田

よりも武士の町・鶴岡の文化的伝統に位置づけられるという指摘があるが、黒崎は庄内藩士という明治維新後も独特の武士的エートスを残した人々の出自をもつ。戊辰戦争の時に庄内藩士の処置に寛大であった西郷隆盛を崇敬して『南洲翁遺訓』（岩波文庫にも所収）を書き遺し、西南戦争でも西郷方に馳せ参じた人々をも生み出した風土である。黒崎は父の猛烈な反対にもかかわらずキリスト者になった。大川も元々は藩医という家系の出自である。大川と黒崎という同じような精神風土からまったくベクトルの方向の違う人物を生み出した庄内ではあるが、なぜか二人の関係はまったく無縁ではなく、むしろ楯円の二つの中心であるかのようにしっかりと結びついているように思えてしまうのである。

本来はキルケゴール学者の斎藤信治（1907～77年）についても触れるつもりだった。斎藤も同じ庄内出身で、大川周明の紹介で1940年にカイロに留学したものの、太平洋戦争勃発で「敵国人」となって帰国せざるを得なくなり、帰国後『沙漠的人間』（1946年）を書き遺した。しかし、すでに紙幅をはるかに超えてしまっているので別の機会にしたい。

（白杵陽）

日本中東学会ウェブサイトの移行について

現在日本中東学会ウェブサイトは国立情報学研究所学協会情報発信サービス（<http://wwwsoc.nii.ac.jp/>）の「ホームページ構築サービス」を利用する形で運営されておりますが、そのサービスが2011年度をもって終了するため、新たにドメイン名を取得してウェブサイト全体を移行させることになりました。ここに新アドレスをお知らせします。

現アドレス：<http://wwwsoc.nii.ac.jp/james/>（2012年3月をもって終了）

新アドレス：<http://www.james1985.org>

日本中東学会の略称（james）の後に付いている数字は、学会設立年です。

現時点では、新アドレスにはパスワードがかけられております。これは、移行・検証（リンクの確認等）作業が終わっていないためです。現在作業を進めておりますが、2012年2月末を目処にパスワードをはずし、新ウェブサイトを公開できる見通しです。

新ウェブサイトの内容は、基本的には現在のサイトと同じです。大きな変更点は、ページの左側にあるメニューの表示方法を改めることによって、サイト内の各ページに直接リンクを張ることができるようにしたこと。これによってウェブを利用した情報発信をより柔軟に行うことができるようになります。

今後、新ウェブサイトへの移行の状況は、学会メーリングリストでも発信いたします。これからも日本中東学会ウェブサイトをよろしくお願ひします。

(林佳世子、事務局)

ニュースレターのデジタル化～導入に向けて

前号 (No. 126) のニュースレターでお知らせしましたように、ニュースレターのデジタル化に関するアンケート結果を受けて、日本中東学会理事会ではニュースレターのデジタル化の検討を行い、積極的に進める方向でゆくことを決定しました。また、前号のニュースレターで、デジタル化についてさらなるご意見を募集したところ、数名の方からご意見が寄せられました、ありがとうございました。その方々のご意見は、導入する方向に沿ったものと理解できる内容でした。

デジタル化の導入に向けて、実際的な作業に入る段階になりましたが、学会全体・会員全員に関わることなので、さらに細かい点を詰める必要があります。たとえば、これまで封入していた会費や年次大会参加費の振込用紙をどうするか、年次大会の報告は他の号と違う扱いにできないか、電子媒体を受け取ることができない会員にはどのように情報をお伝えするのかなど、の問題があります。また、ウェブサイトを構築し直しているため、そちらとの連動についても注意を払う必要があります。

そこで、日本中東学会事務局とニュースレター担当理事がさらに問題点を洗い出して具体的な導入プランを考案し、理事の間でそのプランを検討し、最終的には5月の会員総会で会員の皆様にお諮りしたいと思っています。

学会では引き続き会員の皆様からのご意見をお受けしております。今後ともご協力をよろしくお願ひいたします。

(事務局・山岸智子)

2011年北米中東学会年次大会に参加して

2011年の北米中東学会 (MESA) 年次大会は12月1日より4日間、アメリカのワシントン DC で開催された。今年はパネル総数 255、その中でも「中東の春」に関する分科会やラウンドテーブルが約 20 も設定され、参加者の関心の高さをうかがわせた。また、アメリカの首都での開催ということもあってか、今回のブックフェアには 100 社以上の出版社が参加し、連日盛況を呈していた。筆者はこれまで3年連続で事前の研究発表申し込み段階でリジェクトの憂き目にあっており、初めての参加となった今大会では多くの刺激を受けた。

筆者は (Trust, Values, and Democracy in the Middle East) と題された分科会に発表者として参加した。この分科会は事前企画によるものではなく、個別に申し込まれた4つの研究発表を大会主催者が共通のテーマに即して組織したものである。大会3日目の午後に設けられたこの分科会では、中東地域における政治文化や市民意識に関する発表や、米国が民主化政策の一環としてイラクの大学生を対象に行なっている教育支援プログラムに関する発表が行われた。私は World Values Survey に基づくトルコの「政治的信頼」の動向とその規定要因に関する発表を行ない、別の発表者も「アラブ・バロメーター」を使った政治意識に関する報告、もう一人もイエメンで独自に行ったサーベイリサーチの中間報告をおこない、サーベイ手法の問題点などに関する議論が行われた。特に欧米社会の文脈に基づいて作られた質問項目が、必ずしも中東社会の国民意識を理解するために適切ではなかったり、回答者にとって理解しづらいものとなったりする危険性について意見が交わされた。研究対象国はそれぞれ異なるが、共通の方法論という基盤があったため、有意義な意見交換ができたと思う。昨今中東諸国では各種の世論調査データが蓄積されつつあり、その多くは広く公開されていることを考えると、今後はサーベイに基づく実証的研究も増加するのではないかと考えられる。

私自身の分科会以外には、現代トルコ政治やトルコ外交に関する分科会を中心に見て回った。トルコ政治関連の諸パネルに関して、全体的な印象を述べるならば、研究発表の多くがクルド人やアレヴィー教徒などの「アイデンティティの政治」についての報告を行っていた。もちろん「アイデンティティ」がトルコ政治を理解する上で重要性を増しつつあることは確かであるが、一方で政治学におけるより基礎的な研究、例えば議会研究や政党政治研究、政策決定過程分析などはトルコ政治においてはなかなか進んでいないという印象を受けた（こうした政治学研究に携わる研究者の多くは、「トルコ」や「中東」に関する学会ではなく、比較政治や国際関係論といった「政治学」に関する学会に参加することのほうが多いともいえる）。

もう一点ワシントンでの4日間を通じて感じた点は、若手トルコ人研究者たちの勢いである。北米の大学で学位を取得した後、トルコで次々と設立されつつある大学で教職に就く若手のトルコ人研究者は増加の一途をたどっており、現在のトルコ政治研究はもはやアメリカやイスラエルの研究者だけではなく、トルコ人自身によって突き動かされていると改めて感じた学会となった。一方で、トルコ外交に関するラウンドテーブル (New Directions in Turkish Foreign Policy) では、Kemal Kirişçi と Ahmet Evin という著名なベテラン研究者が、トルコ人およびアメリカ人の若手研究者に助言をしつつ議論を引っ張り、新たな研究課題に導いていくという、見事な役割を担っており感銘を受けた。

筆者はこれまでアメリカの中東関連の学会・研究会と並行して、政治学の学会にも参加してきたが、今回 MESA 年次大会に参加して改めて両者の違いを認識し

た。「中東の春」やトルコ外交といった今日的な政治問題に関する MESA の分科会では、何よりもまず中東の歴史や政治的文脈の中でそういった問題を理解すること、そして現在進行中の現象そのものを「議論すること」自体に意義があると考えられている。一方で、政治学（もしくは他の社会科学分野）に関する学会では、中東の事例をあくまで素材・データとして位置づけ、そこから理論的にどのような含意が導き出せるかに重点が置かれている。ムバラク元大統領を辞任に追い込んだエジプトの大衆蜂起に関する分科会（Making History: People Power in Egypt）で討論者を務めた Eva Bellin（Brandeis University）による総括は、地域研究と比較政治を見事に交差させ、「中東の春」がどのような点で他の地域の政治現象を理解するのに役立つのか、また、そうした中東地域外の事象や比較研究の視点がいかにか「中東の春」を理解する上で有益な分析枠組みを提供するのかを完結にまとめ上げており大変勉強になった。

なお、2012 年の MESA 年次大会は場所をコロラド州デンバーに移し、11 月 17 日—20 日に開催される予定である。

（柿崎正樹）

会員の異動

【新入会員】

岡崎 弘樹
塩崎 悠輝

清水 順一
鈴木 瑛子

西山 愛実

Shahzadah
Nayyar Jehan

【所属先・連絡先の訂正・変更】

鮎合 真介

飯田 巳貴
大塚 建司
夏目 美詠子
上山 一

外山 健二
松田 俊道
宮治 一雄

宮治 美江子

森田 豊子
横田 勇人

連絡先をご存じないですか

下記の会員の方々は、連絡先が不明なため学会からのお知らせなどをお届けすることができないでおります。これら会員の連絡先をご存じの方は、学会事務局までご連絡いただけますよう、ご面倒でもご本人にお伝えいただけますでしょうか。

石原 忠佳	岩永 尚子	柏原 弘明	定森 大治	白神 小鈴
杉山 佳子	瀬戸 邦弘	高橋 陽子	高畑 祥子	高堀 英樹
武田 朝子	武田 歩	樋口 義彦	日野 恵美	安永 真理
山中 啓介	吉田 行香	和賀 えり子		
El-Mostafa Rezrazi	Modjtaba Sadria	Ilhan Shahin		

寄贈図書

【単行本】

山尾大『現代イラクのイスラーム主義運動——革命運動から政権党への軌跡』有斐閣、2011年。

【逐次刊行物】

- 『sadāqah 日本サウディアラビア協会報』 No. 225、2011年9月。
Bulletin of the American Research Center in Egypt. No. 199 (Fall 2011). 2009-2010
Annual report. American Research Center in Egypt, 2011.
Bulletin of the School of Oriental and African Studies. Vol. 74, No. 3. Cambridge
University Press, 2011.
Perceptions: Journal of International Affairs. Vol. 15, No. 1-2. The Center for Strategic
Research of the Ministry of Foreign Affairs, Turkey, 2010.

事務局より

第17回公開講演会に事務局を代表して出席しました。今回の講演会は科研費等の助成を得ることができなかったこともあり、予算という点では厳しいものでした（本来であれば講演会の意義を書きたいところですが、予算のことを考えてしまうのは事務局長の悲しい習性です）。しかし大川周明顕彰会の会員をはじめとするさまざまな方々が手弁当で企画や広報活動をしてくださったおかげで100名を超える参加者があり、地方で開催される公開講演会としては大盛況という結果に終わりました。単なる研究者の交流会に終わることがない、学会の社会的な役割を再認識した次第です。

（新井和広）

編集後記

2012年（辰年）になりました。エジプトでゴネイムが反政府デモをよびかける Facebook のページをたちあげたのが去年の1月25日、ほぼ1年前・・・この1年があっという間に過ぎたように感じます。

アメリカ在住の柿崎会員が MESA 年次大会の報告を投稿してくださいました。ニューズレターに自発的な投稿があった例はあまり多くないので、とても嬉しかったです。

学会も世界も今年はいろいろ変化があることが見込まれます。ニューズレターは理事会や事務局などからのお知らせばかりでなく、会員の声を反映させる媒体でもあります。会員全体に知らせるべきだと思われることについての投稿は大歓迎！本年もどうぞよろしく願いいたします。

（山岸智子）



[以下余白]

会費納入のお願い

本会は会費前納制をとっております。2012 年度会費の郵便振替用紙、あるいは、それ以前の会費に未納がある方には、該当する年度も明記した郵便振替用紙、が同封されておりますのでご利用ください。AJAMES に未送付分がある場合は、2011 年度以前の未納分会費の払込確認後お送りいたします。会費納入率は低い状態が続いており、学会事務局の運営にも支障を来しかねない状況です。是非とも会費納入を宜しくお願い申し上げます。請求会費額は 2011 年 12 月末の入金確認に基づいておりますので、その後に納入され、請求に行き違いが生じた場合にはご寛恕ください。

日本中東学会ニューズレター 第127 号

発行日 2012 年 2 月 10 日
発行所 日本中東学会事務局
印刷所 東洋出版印刷株式会社

日本中東学会事務局

〒223-8521
神奈川県横浜市港北区日吉 4-1-1
慶應義塾大学商学部
新井和広研究室内
日本中東学会事務局
電話/ファクス：045-566-1247
E メール: james@db3.so-net.ne.jp
<http://wwwsoc.nii.ac.jp/james/>
郵便振替口座：00140-0-161096（日本中東学会）
銀行口座：三井住友銀行渋谷支店（普）5346808
（日本中東学会 代表 白杵 陽）